

夢中熱中青春ライフ!



大館陶芸愛好会

(22)

今回は、大館陶芸愛好会をご紹介します。会員の皆さんが力を合わせて工房を作り、地元の上を生かした「素朴な中にも温かみのある鳳凰焼」づくりを目指して陶芸活動を続けています。会長の田村稲男さんからお話を伺いました。

会員が汗を流して

工房を建設

会ができたのは昭和四十六年です。大館で初めて開催された、中央公民館主催の陶芸教室を受講したのがきっかけです。現在、会員は、二十歳代から六十歳代まで二十九人。職業も自営業、

公務員、主婦など様々です。

現在の工房は、餌釣の山際にあります。スタートは中央公民館でした。その後、餌釣部落の好意で餌釣の山際に土地を借りることができて工房を建設。現在地に移転したのは五年ほど前です。工房は、古い電柱などを活用したもので、ほとんどを会員が自ら汗を流して作りました。



窯元見学会に参加した皆さん
(2列目右から2人目が田村会長)

活動は、作品を発表する場として年一回の作陶展、技術の研さんを図るための窯本見学会、会員の親ばくを図るためのきりたんぼ会など、いろいろやっています。窯元見学会は、今までに久慈焼、陸奥美焼などに比べています。また、五年くらい前から、市民陶芸教室を主催していますし、公民館主催の陶芸教室の講師を務められるようになるなど、市の行事にもお手伝いできるようにしました。

陶芸の魅力を

知ってほしい

陶芸の魅力はいろいろありますが、自分のイメージ通りになるかは、焼き上がってからでないと分かりません。ですから、窯のふたを開けるときの期待と不安の心情は何ともいえませんが、良い作品ができたときのうれしさは言葉では表現できないほどです。

私たちの夢は、皆さんが身近に陶芸に接することができ、「陶芸の村」をつくることです。そこには、展示室や茶室などを設け、はにわを道しるべにした遊歩道の所々に水きんやちようず鉢などを配します。たくさんの人たちに、ここでのふれあいを通じて陶芸の楽しさ、奥深さを知ってもらえるような村にしたいと思っています。



会員の作品

藤沢発 → 大館着

前略

大館市民になりました

(23)

☆今回は御成町三丁目の作田英行さんご一家です。

Q・ご家族は何人ですか?

妻と子供の三人です。子供は三歳になります。

Q・どちらから転入されましたか?

神奈川県藤沢市からです。転勤で去年の四月に来ました。

Q・大館の印象はいかがですか?

落ちついた静かなまちという感じがします。まちの中を流れている長木川に白鳥が来ているので、子供を連れて行ったら喜んでいました。妻は、東北の日本海側は冬の寒さがすごいと友だちに言われてきたんですが、想像してたほどでなかったと言っています。ただ、雪道に慣れていないせいか、時々滑って転んでいるようです。

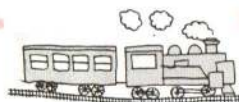
Q・言葉や食べ物などはどうですか?

言葉についてはほとんどありません。食べ物では、比内鶏の肉とお米はおいしいですね。関東ではなかなか口にすることができなかったですから。それと、きりたんぼは、それぞれの店で

味が違うんですけどどれもおいしいですね。

Q・大館にどんなことを望みますか?

自然に恵まれているし、温泉が多いですから、それらをよく生かし、集客につなげていってほしいです。あと、冬でも小さい子供が遊べる場所があればいいと思います。例えば、公園にあるような遊具のある広い屋内施設なんかね。



英行さんと奥さんの美和子さん、長女の様子ちゃん